

人と自然が共存できる里山回復を目指した活動

カシワバハグマのシモバシラ（氷の花）

12月7日は二十四節気の大雪、冷たい大陸の気圧が優勢になり、強い寒気が流れ込み、厳しい冷え込みが続き、各地で積雪が増えてきます。

活動動拠点の田んぼは強い寒気で全面が凍結しました。冷気が満ちて早朝の気温は氷点下、林内のカシワバハグマには茎の水分が凍り、茎が破れてできる氷の花、根元から薄いガラス細工のような氷の造形が現れます。



カシワバハグマの氷の花



自然の力強さ

雑木林や公園ではコナラがカシノナガキクイムシの増殖によって水の吸い上げる機能を阻害して枯死させる樹木の伝染病が蔓延して、その被害が増加しています。

林内の大木はカシノナガキクイムシカが幹から、おがくずのようなものをたくさん出しているのが見られます。

そして、コナラは泣いているように樹液も流している跡が確認されます。おがくずがたくさん出ているコナラの木は残念だが、来夏には枯れてしまうでしょう。

今年、コナラの根元には、沢山のどんぐりが落ちました。そのどんぐりが割れて、発芽しています。発根して年を越したコナラ堅果（種子）の様子はどのようなのでしょうか。

発根した実は厳しい冬を乗り越えるのでしょうか。



コナラのどんぐり



発根したどんぐり